

香教連情報 6月

保護者対応はどうすればいいのか (香教連・教文研セミナー報告)

学校現場における働き方改革において、一番の障壁になるのが、保護者対応です。その難しさから、教員の心も蝕んでいきます。香教連では、保護者対応の在り方を、6月17日(火)夜間に「対面・遠隔研修」にて、会員の皆様に提供いたしました。この研修には、香教連の会員を含め、約60名の参加がありました。ここでは、なぜ保護者は無理難題を学校にぶつけてくるのか、何を求めているのか、その心理と対応策を考えました。

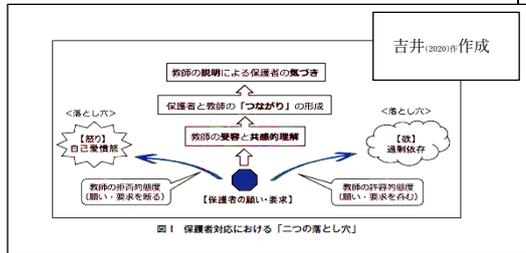
さて、保護者は自分の子供時代の教師との信頼関係が、そのまま自分の子どもに投影されつつあった心理状態になっていることが多いようです。そうした心理を理解した上で、適切に対応しないと、対立関係だけがクルーズアップされるのです。感情的な対応では前進しません。

しかし、学校ではすべて要求を受け止めることはできません。



そこで、要求を断るのか、要求を呑むのかという選択になりますが、どちらも適切な対応ではないのです。要求を断るのも、要求を呑むのも、どちらも問題であり、このことが「二つの落とし穴」に落ちるのです。こうした問題が起こる背景には、さまざまな要因が絡んでいると理解してください。保護者側の要因としては、例えば、保護者自身が子ども時代に先生との関係がうまくいかなかったことがあり、その時の傷ついた気持ちや不満を、現在の我が子のことを通して訴えている場合があります。つまり、「つながり」の危機が生じたのは、一つの原因からではなく、さまざまな要因が複合した結果であるため、大切なことは、保護者の願い・要求の背景にある心理を理解することから始めるのです。まさに聞くことの重要性です。

その結果、保護者自身が洞察(気づき)を得て気持ちや行動をコントロールできるようになることがあります。つまり、教師が保護者の気持ちや考えをわかること(共感的理解)が重要であり、これは願い・要求を呑むことではなく、その背景にある心理を理解することなのです。これによって、



保護者と教師は「つながり」を回復することができるのです。(参考文献 拙編著 生徒指導のリスクマネジメント(教育開発研究所))

おすすめの1冊を紹介します

小学1年担任のための
図工指導 明治図書
雁木 君江 (著)
(元香教連女性部長)

落ちて座つたり、指示をちゃんと理解したりするのはまだ難しい1年生。そんな1年生を担任する先生に向けて、図工を楽しく教えるコツを示している秀逸の一冊です。

事務局からの連絡

8月3日のおもちゃ王国
無料招待のお申し込みは、下記のメールでお願い申し上げます。先着50名で、6月29日(日)AM9時から受け付けます。

香教連事務局(サブ) web
kakyoren@gmail.com
(事務所専用メール)

香教連情報

6月

今年度から開設した本会WEB(サブページ)に、皆さんの声や質問などが寄せられています。メールにてご相談に対応していますが、その一部を紙面にて紹介したいと思えます。なお、公開にあたっては許諾の上、要約して匿名にて対応しております。文責 阪根

教師の仕事はブラック？

Q1 過去に大学で阪根先生の講義をとったことがあります。先生が今年度から香教連で嘱託勤務されると聞き、驚きを隠せませんでした。今学校現場に居ながら、何かもやもやした気持ちになることがあるので、メールをいたしました。毎日が多忙の連続ですが、以前に比べ働き方改革も進行して、幾分楽にはなりました。子どもも大好きです。ただ、教員でない友人から、「先生って大変なのでしょう」とか「教員は保護者対応があつたり、部活動があつたりして大変だと聞くけど」と、「ブラック」だだけが強調されます。自分の仕事が負の評価だという昨今、これをどう考えたらいいのでしょうか。A1 何のために教師という仕事を選んだのでしょうか。そこに答えがあります。とはいえ、過酷な労働環境は問題です。ただ、仕事の厳しさは教員

だけに限ったことではありません。

今、大学勤務を続けながら、香教連のお手伝いをしていきますが、鳴門教育大学には、民間企業から教師をめざす大学院生が数多くいます。その院生たちには、あえて教師の厳しさを伝えていますが、それでも教師になりたいと答えてくれます。それは単に「子どもたちのために」という美辞麗句に集約されるものではないのです。一番印象的だったのは、「そこにドラマがあるから」、「未来を子どもたちと作りたい」という声なのです。今一度、自分のめざすべき教師像を追い求めてみませんか。香教連は、心の荷を下すためお手伝いをいたします。いつでもご相談ください。

いじめ指導の相談とアドバイス

Q2 先日、今年度第一回めのいじめ実態調査で、私の学級の女子生徒が嫌がらせを受けたと書いてきました。また、その生徒の友人も、そのことを目撃したと書いてきました。本日、目撃した生徒、本人の順に事実確認をしました。教頭とも話をし、来週の後半に被害生徒の事実確認、指導を行うことになりました。被害生徒の保護者へ電話連絡をしたところ、本人から内容は聞いていたとのことだったので、週明けから被害生徒との事実確認と指導を行うという報告をしました。これからの指導の在り方について、アドバイスをください。

A2 ここまでの動きは的確だと思います。一番大切なことは、被害生徒本人に、とことん寄り添うことです。あえてそこに徹すれば、解決の道に近づきます。いじめに対する大人(教師)のスタンスを、左図に示しますので、参考にしてください。

大人のいじめ対応姿勢5カ条

- ①いじめられっ子に非なし
(どんな場合でもいじめられっ子に寄り添う)
- ②周辺こそがいじめの元凶
(いじめの子よりも周りの子への働き掛けが大切)
- ③昨日と違うちょっとした様子こそ発見の決め手
(深刻な時ほど子どもは訴えないので、それに気づく感受性が必要)
- ④いじめの輪から新たな輪へ
(既存の集団と異なる新しい集団や世界を提供する)
- ⑤いじめっ子だって泣いている
(いじめっ子の抱えるストレスにも目を向けて)

(阪根健二さん作成)

阪根(2006)

やや古い資料ですが、いじめ自殺が頻発した2006年の秋に、朝日新聞東京本社社会部の要請によって作成したものです。(同年10月22日付け 朝日新聞全国版に掲載) その後、四国新聞、教育雑誌等にも掲載されました。

事務局からの連絡

6月から8月まで、教育会館の改装工事のため、ミコースホール内に「仮事務所」を設置しております。ご不便をおかけしますが、お問い合わせや意見などは、メールにてお知らせください。

なお、香教連新聞は、各分会に、回覧及び情宣のため、部数を増やして同封しています。